

第4回日本映画照明技術者協会 照明技術賞

劇映画部門 “故郷” 担当 飯島 博 (松竹支部)
C F 部門 “ナショナル・フリッシュアップA9” 担当 川辺征男 (新宿支部)
非劇映画部門 該当作品なし
T・V映画部門 本年度出品作品なし

選定委員長 藤林 甲 副委員長 佐藤久男 村上修一
委員 平田光治 大原正男 熊谷秀夫 久保江平八 八亀 実 山田昌和
高橋一禎 川辺征男 矢部一男 佐藤幸次郎 新井 盛 本橋昭一

劇映画「故郷」

松竹支部 飯島 博
大正15年2月11日生



昭和21年1月松竹大船へ入社。昭和33年「有楽町〇番地」(監督川頭義郎、撮影荒野涼一)にて担当者として出発。
代表作に「風の視線」昭和38年(監督川頭義郎・撮影荒野涼一)「惜春」昭和41年(監督中村登・撮影竹村博)「智恵子抄」昭和42年(監督中村登・撮影竹村博)等有り。

選定理由: 「故郷」と云う題材からくる様に、日本の自然の美とそこにある生活を描く演出意図をよく理解し、ロケ撮影が多くセット撮影の少ない全体の構成の中にあつて、ロケーションの困難をよく処理し、特にセット撮影には照明技術が先んずる事なく劇的内容と全く融合した事を高く評価してこれを賞す。

劇映画「故郷」 松竹支部照明スタッフ一同

選定理由: 担当技師の意図する表現技術を、諸君各自が理解し融和せる協調のもとに優秀な映像を造りあげた。これは君達一人一人の努力の結果であり、協力のたまものである事を称えこゝに賞す。

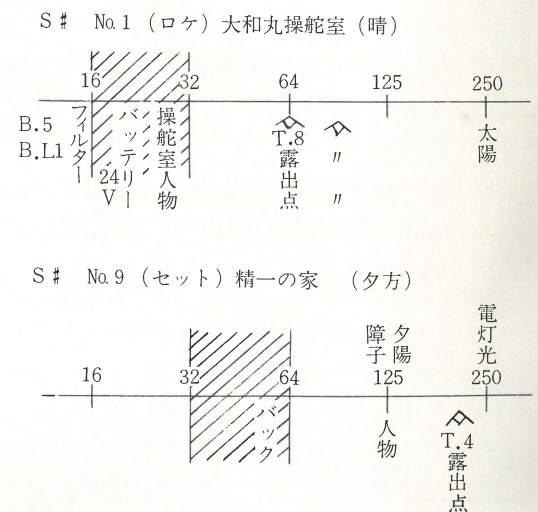
「資料」

「故郷」ふるさとと、いゝますとロマンチックな想像をするでしょうが、心の「ふるさと」ではなく、ある家族が日本の何処かで昔から代々受けつがれて、その土地を守り人を信じ自然を愛し、

主人公である石船の船長も先祖代々住みついた、あのきれいな村を、島を、又自分自身生きがいであつた船長の仕事も、文明と言う歯車の中に組み込まれ、離れざるを得ない、捨てざるを得ない「故郷」であり、現代社会は自然を破壊し、又人間の心も狂わして「人間」本来の姿を見失っている様に思える現在の日本の姿にもう一度見つめなす事が、この作品のテーマではなからうか。

照明設計としてあくまでも自然に受け込むライティング、リアリズムと真実を求める事の照明処理を考え、作為的な処理は避け、ステージ内セット撮影の場合、安易に照明が回り易くなりしがちなを留意致しました。

照明データ △セコニック (ノーアウト型Sタイプ NOk 231237)



C・F部門「ナショナル・フリッシュアップA9」

新宿支部 川辺 征男
昭和13年2月6日生



昭和32年映画界入り、電通映画社をふり出しに東映新東宝東宝日活などで照明係や準備班として勉強する。昭和39年国際放映入り昭和41年N・E・Tテレビの「おれの太陽」で始めて技師をやる。昭和42年からP R映画C・Fを始め、現在はC・Fのみである。

選定理由: 短時間に商品を訴えるCMフィルムの本質の中にあつて、照明設計を基礎とし、意欲的にも単純な光線を用い、これを処理して、適確に商品のイメージを高め、作品の効果を大にしたる照明技術の功績を認めこれを賞す。

C・F部門「ナショナル・フリッシュアップA9」

新宿支部照明スタッフ一同

選定理由: 担当技師の意図する表現技術を、諸君各自が理解し融和せる協調のもとに優秀な映像を造りあげた。これは君達一人一人の努力の結果であり、協力のたまものである事を称えこゝに賞す。

【資料】

この作品の照明は先づ、画面の中に人物の姿がなくても男の商品のCMと云う事がわかる様に焦点を合わせた。商品がひげそりと云う男性商品なので、たくましい感じの中に男性のファッションをも見出す様な商品のイメージアップが、スポンサーからの注文でした。

スタッフ全員でくり返しディスカッションを行い撮影に入った。撮影はスタジオで1日、ライトは50K位で20KBをキイ・ライトに使用した。シヤドーの部分は全て反射で、キイ・ライトの20KBを生かす様にした。肌の質感を出すのにレフレクターを使用したのも良かったと思う。又商品の金属の部分、刃先などにBLのフィルターを使用した。

【選定経過】

11月28日第一回選定委により、スタートし、5日間の試写終了後、2月16日最終選定委員会に於て厳正慎重な審査が行はれ、照明賞が決定された。劇映画部門は、各作品の得点差が余りにも僅少

のため全作品に対して、再び技術検討を行ない、全委員に依る2回目の投票は2作品連記し、その結果上位同点で「故郷」「海軍特別年少兵」が選出された。規約に従つて該当支部4名の委員を除き残りの委員のみで決戦投票した結果、本年度の授賞作品が決定した。

平均値が僅少のわりには各作品共情勢に対してや、安易な妥協をした態度が見受けられ、顕著な技術的成果に欠けるという意見であった。製作日数、製作予算、あるいはロケ、セットの多少により差異はあるが、鮮鋭な感覚と処理を望むという声があった。

C F部門は、一覧表から〇記号、4点以上を選び出し、作品それぞれを採点した。その中から平均値の上位2作品を決戦投票し授賞作品を決めた。

P R作品の出品は一本のみで、検討の結果、対象にならず本年度は該当作品なしと決定した。

本年度照明賞候補作品一覧

劇映画部門

- 熊谷秀夫 “闇に浮ぶ白い肌”(日活作品)
- 木村辰五郎 “哥”(A・T・C作品大映)
- 佐藤幸次郎 “につぼん三銃士”(東京映画作品)
- 羽田昭三 “海軍特別年少兵”(東宝作品)
- 川崎保之丞 “女囚701さそり”(東映作品)

C・F部門

- 森本正邦(東宝) { “東芝カセット・レコーダー”
“東芝ヤグラコタツ”
“味の素モーニングステーキ”
 - 池田泰平(東宝) { “ポーラサンプレス”
“セントメリー 靴”
“黄桜(冬) 盃プレゼント”
 - 大口良雄(東宝) { “ロコタン人形”
“味の素マリーナ”
“黄桜(夏)”
 - 久米光男(映放) { “セドリック・フォドアー”
“ナショナルテクニクス”
 - 川辺征男(新宿) { “吉の川”
“酒悦”
“ナショナル・フリッシュアップA9”
 - 広吉 誠(新宿) { “トヨタ自動車(海外版)”
“若鶴”
 - 上島忠宣(新宿) “三共ルル”
- P・R部門
広吉 誠(新宿) “東京ガス未来都市”